



熊本市 感染症発生動向調査 速報

●インフルエンザが流行しています●

感染症発生動向調査で、熊本市の第50週(12月11日～12月17日)の定点医療機関あたりの患者報告数は、8.48人(定点数25ヶ所、患者報告数212人)となり、例年より、流行の時期や報告数増加のペースが速いようです。流水での手洗いや、人混みでのマスクの着用など、感染予防に努めましょう。



◆インフルエンザの臨床症状について

- 典型的なインフルエンザの症状は、インフルエンザウイルスに感染してから1～3日ほどで、発熱(通常38℃以上の高熱)、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛・関節痛などが突然あらわれた後、咳、鼻水などの上気道炎症状があらわれ、約1週間ほどで軽快します。
- 一般の「かぜ症候群」に比べて全身症状が強くなりやすく、重症化しやすいといわれていますが、インフルエンザにかかっても軽症だったり、まったく症状の出ないこともあり、感染していると気がつかない場合もあります。

◆重症化に注意!!早めの受診を

- 高齢者や、年齢を問わず呼吸器、循環器、腎臓に慢性疾患を持つ人、糖尿病などの代謝疾患、免疫機能が低下している人では、持病の悪化とともに、呼吸器に二次的な細菌感染症を起こしやすくなることが知られており、入院や死亡の危険が増加するため、注意が必要です。
- 小児では中耳炎の合併、熱性けいれんや気管支喘息を誘発することもあります。
- 近年、幼児を中心とした小児において、急激に悪化する急性脳症が増加することが明らかとなっています。厚生労働省「インフルエンザ脳炎・脳症の臨床疫学的研究班」(班長:岡山大学医学部森島恒雄教授)で行った調査によると、毎年50～200人のインフルエンザ脳症患者が報告されており、その約10～30%が死亡しています。臨床経過や病理所見からは、ライ症候群とは区別される疾患と考えられていますが、原因は不明で、現在も詳細な調査が続けられているとのこと。



[※国立感染症研究所インフルエンザから抜粋 詳しくは外部リンクを下のほうに載せています。]

期 間		平成29年 49週		平成29年 50週	
		12/4～12/10		12/11～12/17(最新)	
疾患名	疾患の増減	報告数	定点当り	報告数	定点当り
インフルエンザ		112	4.48	212	8.48
RSウイルス感染症		1	0.06	4	0.25
咽頭結膜熱(プール熱)		19	1.19	19	1.19
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		30	1.88	26	1.63
感染性胃腸炎		114	7.13	118	7.38
水痘(みずぼうそう)		4	0.25	13	0.81
手足口病		24	1.50	26	1.63
伝染性紅斑(りんご病)		0	0.00	0	0.00
突発性発しん		8	0.50	15	0.94
百日咳		0	0.00	0	0.00
ヘルパンギーナ		1	0.06	1	0.06
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)		0	0.00	0	0.00
急性出血性結膜炎		0	0.00	0	0.00
流行性角結膜炎(はやり目)		12	2.40	7	1.40
細菌性髄膜炎		0	0.00	0	0.00
無菌性髄膜炎		0	0.00	0	0.00
マイコプラズマ肺炎		0	0.00	2	0.40
クラミジア肺炎(オウム病を除く)		0	0.00	0	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルス)		0	0.00	0	0.00